

主筆 牧野富太郎

植物研究雜誌 第七卷 第六號

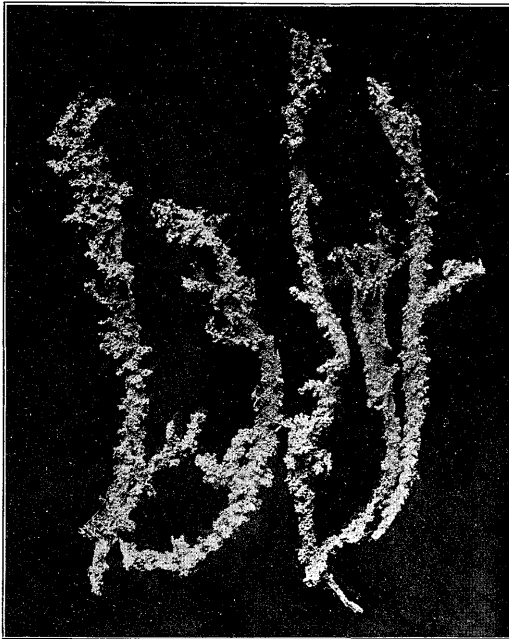
(通卷第
六十六號)昭和六年(1931)四月三十日
東京 津村研究所 發行

○誰レカヤツテ見ナイカ

牧 野 富 太 郎

我邦ニ植物ノ畸形學(Teratology)ノ學者ガ一人モ無イノハ單ニ物足りナイバカリデナク斯學進步ノ上カラ見テモ甚ダ遺憾ノ至リニ堪ヘナイ、此學ハ頗ル趣味ニ富ンダモノデ且植物學ノ種々ノ方面ヘ對シテモ極メテ必要缺クベカラザル一學科デアル事ハ少シデモ植物學ヲ學ンダ人ハ誰レモガ知ツテ居ル所デアラウガ其レニモ拘ハラズ吾レコソハ之レヲ研究シテ其方面ノ旗頭即チ專門家ナニツテヤラウト云フ者ガ我日本ニ一人モ無イノハ實ニ不思議千萬デアル、私ハ我邦植物學ノ發展ノ爲メニ誰レカニ之レヲ專攻セン事ヲ勸メテ見タイト以前カラサウ思ツテ居ツタ

此方面ノ事柄ヲ研究スル人ハ徒ニ机ニ對シテ坐ツテバカリ居リ餘リ野外ニ出向カヌ者デハトテモ其選ニ中ラナイ、此ンナ人ナラバ其學ヘ對シテ確カニ不向キナ生レデアル、斷エズ外ヘモ出テ足ニ任セテ山トナク野トナク跋渉踏破シ博ク深ク且綿密ニ種々草木ノ實物ニ當リ又眼力ノ銳ドイ事モ人並デナク直グ其の物ヲ見付ケ得ル資格アル者デナクテハナラナイ、又推理ニ富ンダ腦力モ必要ナノデさら／＼ト之レヲ片付ケテ行ク敏活ノ働ガ無ケレバナラヌ、兎ニ角萬事ヲサツサトヤツテ行ケル人デ無ケレバ大ナル成功ヲ齎ラサナイ結果ニ了ルノデアラウ、其レカラ又體ノ健康モ必要條件ノ一デ其レデナケレバ山野ヲ飛ビ廻ル事モ又氣ヲ詰メテ研究スル事モ出來ナイ筈デアル、又歲ガ春秋ニ富ンデ居ラネバナラヌ事モ是レ亦必要ナ條件デアル



むくむくきこけ

Stereocaulon tomentosum E. Fr.

Ca 1/1 (蕾軒撮影)

此畸形學ハ其領分ニ這入ツテ見タナラバトモ面白イ事デハナイカト思フベカリデナク此レ迄マダ誰レモ我日本デヤツテ居ナイカラ尙更其處ニ意義ト面白ミト勵ミトガアル、一日デモ早く其處ニ着眼シテ其レニ從事スレバ我日本ニ於テ確カニ其方面デノいノ一番ノ専門家ニナレル筈ダ、誰レカ一番ふんどし(オット、御婦人ナレバゆもじカ)ヲベテ掛カル御方ハ無イカナ、私ハ我日本ノ植物學ノ爲メニ偏ヘニ其レヲ切望スル然シ其レヲヤルニハ確カニ種々ノ基礎知識ガ入ルカラ其レハ是非豫ジメ學ビ得テ置カネバナラヌ

○蕾軒獨語 (其三十七)

蕾軒 朝比奈泰彦

○むくむくきこけ

吾國ニ産スルきこけ *Stereocaulon* ノ類ハ仲々多數デ未ダ充分検査ヲ經ナイガ變種ヤ品種ヲ數ヘ上ゲルト三十ニモ近イモノデアラウト豫想シテ居ル、其内デ最モ著シキモノ、一ツハ *Stereocaulon tomentosum* E. Fr. デアル、此地衣ハ本州ノ高山ニ産スルト思フガ確實デハナイ、小生ノ見タ最モ立派ナ標本ハ樺太産ノモノデ榮濱ノ東京帝國大學演習林ニ勤務サル小田切辰太郎君ノ送品デ圖ニ示シタモノガソレデアル、同君ハ其自生地ノ狀態ヲ詳報サ